

様式

会 議 録

会 議 の 名 称	令和 5 年度 第 6 回 川 越 市 協 働 事 業 審 査 委 員 会
開 催 日 時	令和 6 年 3 月 2 5 日 (月) 午後 2 時 開 会 ・ 午後 4 時 閉 会
開 催 場 所	やまぶき会館 A 会 議 室
議 長 (会 長) 氏 名	遠 藤 克 弥 委 員 長
出 席 者 (委 員) 氏 名 (人 数)	遠 藤 克 弥 委 員 長 櫻 井 晶 夫 副 委 員 長 真 下 英 二 委 員 佐 藤 保 雄 委 員 栃 原 綾 子 委 員 野 本 吉 憲 委 員 藤 井 美 登 利 委 員 米 原 民 子 委 員 柳 内 邦 章 委 員 山 下 利 一 委 員 (1 0 名)
欠 席 者 (委 員) 氏 名 (人 数)	な し
事 務 局 職 員 職 氏 名	地 域 づ くり 推 進 課 課 長 福 釜 周 二 副 主 幹 熊 谷 真 一 主 任 森 裕 美
傍 聴 者 人 数	な し
会 議 次 第	1 開 会 2 委 員 長 あ い さ つ 3 議 事 (1) 報 告 事 項 に つ い て (2) 継 続 事 業 の 決 定 に つ い て (3) そ の 他 4 閉 会
配 布 資 料	別 紙 ・ ・ ・ 次 第 資 料 1 ・ ・ ・ 令 和 5 年 度 実 績 報 告 書 (事 業 報 告 会 未 提 出 分) 資 料 2 ・ ・ ・ 令 和 6 年 度 協 働 推 進 事 業 の 予 算 に つ い て 資 料 3 ・ ・ ・ 令 和 6 年 提 案 型 協 働 事 業 補 助 金 (継 続 事 業) 一 覧 ・ 申 請 書 資 料 4 ・ ・ ・ 令 和 6 年 度 審 査 委 員 会 ス ケ ジ ュ ー ル (案) 参 考 1 ・ ・ ・ が く ど う i g o サ ポ ー ト & キ ャ ラ バ ン 事 業 (令 和 5 年 度) 参 考 2 ・ ・ ・ 令 和 5 年 度 川 越 市 協 働 委 託 事 業 応 募 要 項 参 考 3 ・ ・ ・ 令 和 5 年 度 川 越 市 提 案 型 協 働 事 業 補 助 金 応 募 要 項 参 考 4 ・ ・ ・ 令 和 5 年 度 協 働 事 業 に 関 す る 職 員 研 修 ア ン ケ ー ト 集 計 結 果

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員長	<p>開 会 14時00分</p> <p>1 開 会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>会議の成立</p> <p>市協働事業審査委員会条例第5条第2項</p> <p>会議の傍聴⇒不可</p> <p>理由：提案型協働事業の団体決定及び各事業審査において自由活発な意見交換を確保するため</p>
事務局	<p>3-1 報告事項について</p> <p>資料1の説明</p> <p>令和6年2月13日に実施した協働事業報告会の際に事業継続中等のため未提出だった実績報告書（提案型協働事業7件分）</p> <p>資料2の説明</p> <p>協働事業の予算については3月19日の川越市議会の議決により決定した。</p> <p>協働委託事業</p> <p>(1) 子育て情報誌作成</p> <p>こども政策課 150,000円</p> <p>(2) かわごえエコツアー</p> <p>環境政策課 90,000円</p> <p>提案型協働事業補助金</p> <p>補助経費の1/2、上限20万円 1,760,000円</p>

事務局	<p>3-2 継続事業の決定について</p> <p>令和5年度実施提案事業8件のうち、協働事業報告会における評価がAまたはBであった6件が継続事業に申請。</p> <p>各事業についてスケジュール、予算書等の説明。</p> <p>(1) がくどう igo サポート&キャラバン事業【3回目】</p> <p>(2) 「仙波の田んぼで季節を感じ、食を味わう」農業振興事業【2回目】</p> <p>(3) 川越的場八景蟹ヶ渚再生事業【3回目】</p> <p>(4) 新宿町五丁目地域デジタル化【3回目】</p> <p>(5) 仲町地域交流会活動事業【2回目】</p> <p>(6) コミュニティラジオで楽しく(アクティブ)防災【3回目】</p> <p>※“アクティブ防災”が商標登録されていたため事業名を“楽しく防災”に変更した。</p> <p>(テレジン収容所の幼い画家たち展は今年度が3回目の実施であったため、登川直穂子音楽振興事業は団体の希望がなかったため申請なし)</p> <p>令和6年度の提案型協働事業補助金の予算が1,760,000円、継続事業の補助申請額の合計が827,000円と全体の半分に満たないことから事務局としては6件採択と考えている。</p>
委員長	<p>仲町地域交流会活動事業について、仲町は人口が戻ってくるスペースがない。出身の子どもたちは出て行ってしまふ、地元を知っている子どもたちが余所者になってしまう傾向があり、伝統的な社会の在り方などはどんどん薄くなっていく。そこで地元を見直そうという発想で始まった事業。視察に行ったが、子どもも大人も知らないことが多く非常に驚いていた。川越という伝統がある地域では子どもたちが自分の住んでいるところはどういうところなのか知る必要がある。学校だけでは十分に教育できない、そういう意味ではこういった事業がもう少し広まってひとつの町ではなく複数の町が連携してできるとよいと感じた。川越にとっては必要な事業。</p>

委員	登川直穂子音楽振興事業について、個人の名前が出ている事業については難しいが、無料で音楽を教える機会はすごくいい取り組み。うまくやり方を変えて協働事業を行うことは難しいのか。
事務局	事務局として継続可能な事業については団体、担当課共に声をかけているが、今回は希望がなかった。1年置いてまた担当課に声をかけてみる。
委員	テレジン収容所の幼い画家たち展について、3回終了し継続できないのはわかったが、団体の今後の活動についてどうなっているのか。
事務局	事業内容を新しくし、新規提案事業として申請の相談を受けている。来年度は学校関係の事業で考えているとのこと。
委員長	登川直穂子音楽振興事業とテレジン収容所の幼い画家たち展には共通点がある。発展した形で事業をやりたい時にどういうアドバイスをどこから受ければいいのか。協働事業として3年継続した後、団体だけになったときに何ができるか。市内の状況、役所内の支援(補助)状況を知らないと団体は諦めることになる。何か支援があれば続くのではという事業について審査委員会でどう判断していくか、大きな課題になる。
委員	事務局が県のネットワークに投げかけるなどして市役所と繋がってよかったと、協働事業としてスタートして始まった事業を手放さないでどのように育てていくかは市役所の役割。
事務局	3年目の事業に対しては相談の受付など早め早めのアクションを心掛けたい。
委員長	学校という対象だと若干やり方を考えないといけない、そういう部分のアドバイスを教育委員会からもらうなど、少し変えれば本当はできるのに諦めてしまわないようにしたい。
委員	テレジンのコンセプトは展示した絵をどう見せるかがスキームになっている。どう手を差し伸べ、助言したらいいか。絵を見せることを逸脱しないと中身は変えられない気がする。

委員	<p>人権推進課は同じ企画、似たようなものになってしまうので、他の企画が必要。川越だけでなく所沢市や狭山市など他市の人権推進課に紹介することもできる。川越から外に羽ばたかせる視点の変え方もある。</p>
委員長	<p>そういうアドバイスがうまくいく流れができないか、課題。</p>
委員	<p>登川直穂子音楽振興事業について、川越奏和奏友会のチラシに登川さんのことが載っていた。団体が独自に新しい関係を作ったのでは。両者にとってよいことだと思う。</p>
委員	<p>仲町地域交流会活動事業は自治会の中のことも大事だが、中心市街地をまとめる形も必要。事業の際に元町1丁目自治会の方も来ていた。来年度、中心市街地の十ヶ町に声をかけ参加してもらおうとよい。同じことを他の自治会でもできるように広がっていく形が必要だと思う。</p>
事務局	<p>団体としても担当課としても広げていきたいと考えている。徐々にステップアップさせていきたい。担当課として情報交換の場を設けるなどしたい。</p>
委員長	<p>マンションなどの新興市民と昔からの市民との関係が複雑。いっしょにやっていくにはどうしたらいいのか。仲町の事業はそれを象徴的に見せ、市民で考えるきっかけを提供していると思う。川越はこれからどういう方向に向かうのかという大きな課題を抱えながら昔から住んでる人たちがどういう考え方をしているのか、新興市民とどう付き合っていくのか、解決策を持っていない。その中で伝統を守らなければという思いが地元で生まれ育った人にはある。そういうところに市や審査会がどうコミットしていくかという重要な課題を投げかけている。</p>
委員	<p>継続事業の6件は見方を変えると全て多世代交流。コミュニティーラジオは大勢人がいて何をやっているかよくわからなかった。せっかくやるなら親子で仲良く目的に沿った形で練ったほうがいい。</p>

委員	登川直穂子音楽振興事業について、今文科省でコミュニティスクールというのをやっている。がくどう igo サポート&キャラバン事業のように放課後子ども教室や学童に赴き指導をするのであれば学校に入り込みやすい。
委員長	教育委員会ではコミュニティスクールは学校中心、サポート事業は地域中心で考えていて、課が違い壁がありうまくいかない。教育委員会の中で横のつながりを持って協力しないとけない。
委員	川越的場八景蟹ヶ渚再生事業はとてもいい事業だと思うが、団体会員に高齢者が多いことが心配。後継者を作らないと続かない。育成会などうまく関係していくといい。
委員	コミュニティラジオでアクティブ防災の予算書の項目を応募要項の項目に統一して欲しい。また、場合によっては人件費が出ることを団体に伝えるべき。
事務局	来年度の応募要項の記載をわかりやすくする。
委員	委託事業について予算が余るようであれば、予算額プラスアルファで団体の人件費を上げるような形にできないのか。
委員	規模が大きい団体などで給料が出ている団体で更に人件費を重ねると、実際には違ったとしてもあたかも市が給料の肩代わりをしているように見えてしまう可能性がある。そのあたりは考慮しなければならない。
委員	食糧費についても説明ができるようにしておいた方がいい。
委員長	予算項目については今一度精査して今後団体に説明できるようにしたい。
事務局	<p>3 - 3 その他</p> <p>○令和6年度のスケジュール（案）について</p> <p>第1回 4月15日（月）午後2時</p> <p>川越市役所7階 第5委員会室</p>

	<p>第2回 5月16日(木) 午前・午後 (プレゼンテーション・ヒアリング) 川越市役所7階 7AB会議室</p> <p>第3回 5月27日(月) 午後2時 川越市役所7階 第1委員会室</p> <p>第4回 1月中旬から下旬</p> <p>第5回 2月10日(月) 午前・午後 ウェスタ川越 多目的ホールA・B・C</p> <p>第6回 3月末</p>
事務局	○職員研修アンケートの集計結果について
委員	集計結果について説明 職員の中に協働の概念がよくわからないという人がいる、仕方ない部分もあるにはあると思う。その一つが教育委員会ではないか。
事務局	職員の協働への理解を深めるために4月に新規採用職員に対し、協働についての話を内部研修の一コマを使ってすることになっている。今回のアンケート結果もふまえて話をしたいと考えている。
委員	どの課の職員が参加したのかわかるようにして欲しい、書いてある内容が全く違う。場合によっては財政部が今後協働にかかわる可能性もある。
事務局	今回の研修では直接協働事業に携わることのない部署も参加している。財政部も直接はかかわらないが、財政的な観点からかかわることもある。
委員長	職員に協働を理解していただき、それぞれが担当した時に支援の仕方がうまくスムーズに行くように期待する。
委員	川越市の提案型協働事業は団体を立ち上げたばかりのところと行政が協働するめずらしい形。他の自治体だとまず団体だけ

<p>委員長</p>	<p>である程度実績を積んでから市と協働することが多いので、市の職員の戸惑いも理解できる。事務局が職員と団体に説明するなどしないとうまくいかないが、よくつないでいる。</p> <p>役所と一般の方は分けて考えがち、その壁を少しずつ取り払うのがこの協働事業だと思う。</p>
<p>副委員長</p>	<p>4 閉 会</p> <p>副委員長あいさつ</p> <p>閉会 16時00分</p>